

高鍋町美術館開館記念「プチ・パリ展」

作品リスト Liste des œuvres

No.	作 品 名 作 家 名 解 説	制 作 年	素 材 ・ 材 質	寸法(縦×横cm)	所 属 先
1	湯浴する女	1910年代	油彩・カンヴァス	20.5×14.2	財団法人
	オーギュスト・ルノワール RENOIR, Auguste (1841-1919)				秋月郷土館
	妻アリーの死後、アトリエに活気をもたらしたのがモデルのアンドレ。彼女をモデルにした作品の1つ。				
2	プールヴィルの断崖	1882年	油彩・カンヴァス	59.0×71.0	東京富士美術館
	クロード・モネ MONET, Claude (1840-1926)				
	印象主義の代表的画家。ブーダンの感化を受けて画家を志す。彼の作品「印象一日の出」が印象派の名前のもと。				
3	漁船	不 明	水彩・紙	9.2×15.9	財団法人
	ウジェーヌ・ブーダン BOUDIN, Eugène (1824-1898)				秋月郷土館
	フランスの画家。独学で画家となり、海景画を好んで描いた。モネの優れた師でもある。				
4	オワーズ河岸の工場	不 明	油彩・カンヴァス	60.2×81.3	東京富士美術館
	ギュスターヴ・ロワゾー LOISEAU, Gustave (1865-1935)				
	コローとともにバルビゾン派として活躍するが、やがて印象派の画風に移った。				
5	サン・トロペの松林	1892年	油彩・カンヴァス	64.6×80.5	宮崎県立美術館
	ポール・シニャック SIGNAC, Paul (1863-1935)				
	自然を点という筆触でとらえた印象派を、さらに理論と科学性をもって分析した「新印象主義」を樹立した。				
6	葡萄を持つ女	1911-12年	油彩・カンヴァス	73.7×61.6	宮崎県立美術館
	ピエール・ボナール BONNARD, Pierre (1867-1947)				
	新芸術の先駆者を自負して、ナビ派を結成。人物画、風景画、静物画などジャンルも広い。				
7	ムーラン・ド・ラ・ギャレット	1920年	油彩・カンヴァス	44.5×61.5	東京富士美術館
	モーリス・ユトリロ UTRILLO, Maurice (1883-1955)				
	タイトルの場所は、モンマルトル近くにある大衆舞踏場。ムーラン(風車)が目印でギャレット(お菓子)があった。				
8	プラーグの眺め	1920-30年代	水彩・紙	22.5×28.5	財団法人
	アルベール・マルケ MARQUET, Albert (1875-1947)				秋月郷土館
	浜辺の景観が詩情豊かに描写され、「水の画家」と呼ばれた作者の本領をよく伝えている。				
9	バラ色の扇	1927年	エッチング・紙	32.0×26.0	東京富士美術館
	マリー・ローランサン LAURENCIN, Marie (1885-1956)				
	舞台装置デザインなど絵画制作以外の分野でも活躍。淡い色を基調とした甘美な女性像を独特なタッチで制作。				
10	春	不 明	リトグラフ・紙	73.5×54.5	東京富士美術館
	マルク・シャガール CHAGALL, Marc (1887-1985)				
	パリにあこがれ外国から渡仏し、独自の画風で成功した画家たち、エコール・ド・パリ(パリ派)の一員。				
11	少女の頭部	1930年代	黒インク・紙	26.0×20.0	財団法人
	アンリ・マティス MATISSE, Henri (1869-1954)				秋月郷土館
	パリで活躍したフォービズムの画家。これはモデルの強い個性を表現しており、彼の素描の特質を示している。				
12	泉のほとりのレベカ	不 明	エッチング・紙	23.3×27.2	財団法人
	マルク・シャガール CHAGALL, Marc (1887-1985)				秋月郷土館
	ロシア出身のフランスの画家。人物、動物、楽器をモチーフとした画面構成を好んだ。パリ派の一員。				

13	女と馬	1968年	エッチング・紙	27.7×38.7	財団法人
	パブロ・ピカソ PICASSO, Pablo (1881-1973)				秋月郷土館
	1968年、パリのルイズ・レリス画廊で開催された「347点の銅版画展」のなかの1点と思われる。				
14	飛ぶ女	1968年	エッチング・紙	11.8×5.8	財団法人
	パブロ・ピカソ PICASSO, Pablo (1881-1973)				秋月郷土館
	スペインの画家。ブラックとともにキュビズム(立体派)の創始者。これはシリーズ「エロチカ」のなかの1点。				
15	3人の女	1924年	リトグラフ・紙	56.0×40.0	宮崎日日新聞社
	マリー・ローランサン LAURENCIN, Marie (1885-1956)				
	女流画家。一時期キュビズムの影響を受けたが、終始パステルカラーに似た色調で画面上の女性をつくりだす。				
16	モダンスタイルの肖像	1949年	リトグラフ・紙	65.5×49.5	東京富士美術館
	パブロ・ピカソ PICASSO, Pablo (1881-1973)				
	「子供時代、ラファエロのように描けたが、子供のように描けるのに半生を費やした」という彼の言葉は印象的。				
17	黒い軍車	1958年	リトグラフ・紙	34.0×39.5	東京富士美術館
	ジョルジュ・ブラック BRAQUE, Georges (1882-1963)				
	ピカソとともにキュビズムを代表する画家。淡い色調で描く。作品は、焼物、彫刻、宝石デザインと幅広い。				
18	ボート	不明	油彩・カンヴァス	54.2×63.1	財団法人
	モーリス・ビュッフェ BUFFET, Maurice (不詳)				秋月郷土館
	フランスの画家。				
19	パリ郊外ーサン・ドニ	1910年	油彩・カルトン	48.5×72.5	財団法人
	モーリス・ユトリロ UTRILLO, Maurice (1883-1955)				大原美術館
	1910年代前半は「白の時代」とされ、彼の作品が最も美しい時代であり、傑作はこの時期に集中している。				
20	ココの像	1907年頃	ブロンズ	40.0(高さ)	社会福祉法人
	オーギュスト・ルノワール RENOIR, Auguste (1841-1919)				石井記念友愛社
	モネとともに印象派の結成にたずさわったフランスの画家。この像は三男クロードをモデルにした晩年の作品。				
21	葉つき葡萄蔓文花瓶	1902年頃	ガラス	38.0(高さ)	個人蔵
	エミール・ガレ GALLÉ, Emile (1846-1904)				
	アール・ヌーボーの代表的工芸作家。2、3層のガラスを被(き)せ(重ね)削っていく被せガラス技法による作品。				
22	雀に雪樹林文花瓶	1900年頃	ガラス	35.4(高さ)	個人蔵
	エミール・ガレ GALLÉ, Emile (1846-1904)				
	雪、樹木、雀という日本画の様式をそのまま装飾に利用している。パリ万博に出品した頃の作品。				
23	すみれ文花瓶	1895年頃	ガラス	38.5(高さ)	個人蔵
	ドーム兄弟 DAUM [オーギュスト・ドム Auguste (1853-1909) アントナン・ドム Antonin (1864-1930)]				
	ガラス作家兄弟。アール・ヌーボーのガラスを代表する抒情的な作品を数多く生み出した。				
24	樹林文花器	1900年頃	ガラス	24.0(高さ)	個人蔵
	ドーム兄弟 DAUM [オーギュスト・ドム Auguste (1853-1909) アントナン・ドム Antonin (1864-1930)]				
	薄桃色と紫の微妙な色合いを見事にだした作品。パリ万博の頃のものと思われる。				
25	湖景文花瓶	1900年頃	ガラス	41.5(高さ)	個人蔵
	ドーム兄弟 DAUM [オーギュスト・ドム Auguste (1853-1909) アントナン・ドム Antonin (1864-1930)]				
	被(き)せガラス技法による作品。パリ万博に出品した頃のものと思われる。				

26	薔薇文ランプ	1902年頃	ガラス	176.0(高さ)	個人蔵
	ドーム兄弟 DAUM [オギュスト・ドーム Auguste(1853-1909) アントナン・ドーム Antonin(1864-1930)]				
	柱を茎、トップのガラスを花に見立て、薔薇を表している。				
27	飾り皿(3枚)	19世紀前半	磁器	24.0(直径)	個人蔵
	(セーヴル窯・磁器) SÈVRES				
	250年の歴史を持つヨーロッパを代表する磁器。フランス、セーヴルに窯があり、伝統の技法は継承されている。				
28	ルイ16世	19世紀前半	磁器	51.0(直径)	個人蔵
	(セーヴル窯・磁器) SÈVRES				
	マリー・アントワネットと結婚したフランスの王、ルイ16世を中心に、女王と側室を描いた大皿。				
29	鳥たちのいる大地	19世紀前半	磁器	36.0×45.0	個人蔵
	(セーヴル窯・磁器) SÈVRES				
	シャルロット・リシモン伯爵によって名付けられた皿。スウェーデンのダルタック3世が所有していた物。				
30	中庭	1954年	油彩・カンヴァス	162.0×97.0	財団法人
	荻須高徳 OGISU, Takano ri (1901-1986)				大原美術館
	26歳で渡仏。佐伯祐三とともに制作活動を行なう。縦長の画面に配された建物と荷車で下町らしさを表現。				
31	水浴の裸婦	1930年頃	油彩・カンヴァス	102.5×77.5	個人蔵
	田中 保 TANAKA, Yasushi (1886-1941)				
	18歳でアメリカに渡り美術学校へ。裸体画を研究し、自然の美と裸体の自然性を説いた。パリ派の一員。				
32	和服の少女	1913年	油彩・カンヴァス	81.5×65.0	社会福祉法人
	児島虎次郎 KOJIMA, Torajiro (1881-1929)				石井記念友愛社
	東京府勧業博覧会出品の作品が宮内庁買上げとなる。石井十次の長女と結婚後、大原美術館の作品購入に尽力。				
33	少女	不明	油彩・カンヴァス	40.6×31.9	財団法人
	青山熊治 AOYAMA, Kumaji (1886-1932)				秋月郷土館
	兵庫県出身。東京美術学校を中退。この作品は、素朴で美しい日本的な油絵に仕上がっている。				
34	朝のボン・マリ	1973年	油彩・カンヴァス	59.7×71.7	財団法人
	萩谷 巖 HAGINOYA, Iwao (1891-1979)				秋月郷土館
	30歳の時に見た大原コレクションに魅せられ渡仏。帰国後は個展活動を中心に風景画、静物画を主に制作。				
35	裸婦	不明	リトグラフ・紙	49.8×39.7	財団法人
	藤田嗣治 FUJITA, Tsuguharu (1886-1968)				秋月郷土館
	乳白色の肌に線描の独自の作風。エコール・ド・パリの一員。フランス国籍を取得後、カソリック画家となる。				
36	猫	不明	油彩・カンヴァス	73.0×92.3	個人蔵
	ポール・ギアマン GUIRAMOND, Paul (1926-)				
	フランスの現代画家。動物をモチーフにした作品が多く、枯れた色調で知られている。				
37	木馬	1976年	油彩・銅板	99.5(直径)	個人蔵
	ボンヌフォワ BONNEFOIT (不 詳)				
	フランスの現代画家。この作品は、オリエンタルな色調で円形の銅板に描かれている。				
38	白いノートルダム	不明	油彩・カンヴァス	100.0×73.0	個人蔵
	プリキング PRIKING (不 詳)				
	不詳のフランス画家。空想の中に建物、人物を自在に描く。				

39	零へ	1977年	油彩・カンヴァス	45.5×53.0	個人蔵
	櫻井孝美 SAKURAI, Takayoshi (1944－)				
	埼玉県出身。日本大学芸術学部卒業。現在、フランス、パリ在住。				
40	赤いフーラル	1991年	シルクスクリーン・紙	53.0×41.0	高鍋町
	山田新一 YAMADA, Shinichi (1899－1991)				
	都城中学校を卒業後、画家の道へ。アマン・ジャンに師事するため渡仏。風景、人物画が多い。				
41	洋燈とチェスト	1976－78年	油彩・カンヴァス	73.0×60.8	高鍋町
	円池 茂 MARUIKE, Shigeru (1947－)				
	東京芸術大学を卒業後、渡仏。個展を中心に活動を続ける。庶民の生活を題材にフランスの情景を表現する。				
42	モスク	不明	油彩・カンヴァス	53.0×65.2	個人蔵
	鶴岡義雄 TSURUOKA, YOSHIO (1917－)				
	茨城県出身。日本美術学校を卒業後、渡仏。サロン・ドートンヌ会員。				
43	村への道	不明	油彩・カンヴァス	73.0×92.3	個人蔵
	元村 平 MOTOMURA, Taira (1938－)				
	熊本県出身。武蔵野美術大学を卒業後、渡欧し、制作活動が続けている。現在、フランス在住。				
44	構成・ステンドグラスに倣って	1978－83年	油彩・カンヴァス	45.5×33.5	個人蔵
	小島義也 KOJIMA, Yoshiya (1914－1983)				
	清水多嘉示から彫刻を学ぶ。風景画、少女像など同じ題材の中で構図を追求し続けた。この作品は絶筆。				
45	ノルマンディー風景	1978－83年	油彩・カンヴァス	45.5×38.0	個人蔵
	小島義也 KOJIMA, Yoshiya (1914－1983)				
	カソリック画家として渡仏。直線とわずかばかりの曲線で構成され、風景を題材にした抽象画のようである。				
46	ベールの少女	1978－83年	油彩・カンヴァス	45.5×33.5	個人蔵
	小島義也 KOJIMA, Yoshiya (1914－1983)				
	滑らかな曲線と少しの直線で表現された単純な顔立ちではあるが、一作ごとに微妙な変化を見せている。				
47	ポン・ヌフ	1996年	アクリル・カンヴァス	65.2×91.0	個人蔵
	大上敏男 OKAMI, Toshio (1930－)				
	宮崎県都農町出身。旧制県立高鍋中学校で平原義夫と出会い、美術を志す。日展会友。光風会会員。				
48	ガード下	1994年	アクリル・カンヴァス	60.6×91.0	個人蔵
	大上敏男 OKAMI, Toshio (1930－)				
	佐伯祐三に深く傾倒し、たびたび渡仏。駅、港、扉などを通して庶民の哀感を表現している。宮日美術展無鑑査。				
49	パリ慕情	1991年	油彩・カンヴァス	72.7×60.6	個人蔵
	石井秀隣 ISHII, Hidesato (1934－)				
	宮崎県高鍋町出身。福岡学芸大学在学中の第8回県展(現宮日展)で特選を受賞する。国画会会友。				
50	セーヌ沿いの家	1986年	油彩・カンヴァス	72.7×60.6	個人蔵
	石井秀隣 ISHII, Hidesato (1934－)				
	生命の尊さ、美しさ、永遠性へのあこがれを制作テーマにしている。宮日美術展無鑑査。				

※アルファベットによる作者名については、ミドルネームを省略し、姓(ファミリーネーム)を先に大文字でかかげ、名(パーソナルネーム)をカンマの後に小文字で示しました。

※展示の都合により、出展作品を変更することがあります。